



# 永利 尚三さん (31歳) (営農地／小郡市)

## 仲間とともに楽しくチャレンジ

《就農のきっかけ》

### 父親の死を機に始まったイチゴづくり

高校卒業後、地元を離れ、車の部品を製造する会社で働きました。数年後、地元に戻ってきたとき、父親に「農業がしたい」と言ったのですが、父親からは、「それはでけん。就農すると結婚しにくい環境になる。農業は、結婚してからやれ。」と言われ、断られました。

それから5年後の25歳のとき、地元の運送業で働いていたのですが、父親の急死を機に仕事を辞め、就農しました。当時付き合っていた彼女も就農することに理解を示してくれ、就農して半年後に結婚しました。

両親はイチゴを生産しており、最初は、母に習いながらイチゴづくりを始めました。

《これまでの過程》

### イチゴからミズナへ

就農してしばらくは、母親とイチゴを栽培していましたが、春先に迎える出荷ピークに労力が足りず、とてもキツイ思いをしたそうです。

これからもずっと母親の労働力に頼り続けるわけにもいかず、将来のことを考えると、「雇用の導入が必要だ」と考えるようになりました。

しかし、イチゴだけでは夏場の仕事がなく、収入もないため、雇用を導入するのは容易ではありません。

そこで、地元の先輩方に相談して、周年で栽培できる施設軟弱野菜を勧められました。まずは、以前イチゴを栽培していた空きハウスを利用して、ミズナを栽培してみることにしました。

雇用については、外国人実習生を活用し、イチゴとミズナの複合経営を始めました。

その後は、ミズナの栽培がおもしろくなり、雇用を増やすとともに規模拡大を進め、今ではミズナが1.2haにまでなりました。



プロフィール

- 家族構成／祖母、母、本人、妻、子ども ■前職／運送業
- 営農年数／約6年
- 従業員数／常時4名(日本人1、外国人実習生3)、外注10名
- 耕作(経営)面積／施設140a ■販路／JA共販

《これからの展望》

### これからもチャレンジ!!

アドバイスをくれる先輩方と一緒に、もっとミズナの生産性を高めていきたいと考えています。特に、夏場はハウス内に雑草が生えやすくなるため、しっかりと対策をとっていきたいです。

今後はミズナの規模を拡大しながら、近年、夏場のミズナの単価が下がってきているので、夏場の収入安定のため、オクラなどの品目導入を検討しています。

また、今の経営において、雇用労働力はなくてはならない重要な存在なので、雇用管理や農業経営についても、もっと勉強していきたいです。



### Good👍 成功のためのポイント

地元と同年代の先輩方がいてくれることで、とても心強くと感じています。研修会や視察などには積極的に参加するようにしていますし、青年部にも加入し、仲間づくりにも励んでいます。そうした仲間が、今後の大きな支えになると考えています。

また、「やってみようかな」と思ったことは、失敗を恐れずやってみることも大事だと思います。経験がマイナスになることはないと思っているからです。

すでに就農している先輩方や関係機関のみなさんにも、就農しやすい環境づくりに取り組んで欲しいです。